



「北風と太陽」

校長 渡辺 隆

新しい年を迎えました。まずは、昨年、さまざまな場面で皆様の多大なるご支援をいただきましたことに、厚く感謝申し上げます。

今年は辰年。天に駆け上がる龍のように、自信をもって正しい道を力強く進む生徒にしていきたいと考えております。本年もよろしくお願いいたします。

「北風と太陽」というイソップ寓話をご存知でしょうか。

道を歩いている旅人を見て、北風と太陽が、どちらが旅人の着ているコートを先に脱がせることができるか、勝負します。

北風は、自信満々で、思いっきり強い風を旅人に吹き付け、コートを吹き飛ばそうとします。しかし、旅人は、冷たい風に負けてなるものかと、しっかりコートの襟元を押さえ耐えるのみです。

次に、太陽が、暖かい光をいっばいに注ぎます。旅人は、笑顔で額の汗をぬぐうと、ゆっくりと自らコートを脱いでしまいます。

「北風よりも太陽」

どう考えても、北風の方が強い印象がありますが、目的に対して、何が効果的な方法かは、判断が難しいところなのだと思います。

子どもに付けたい力が、「これからも学び続けていく力」、「自らを向上させようとする態度」などであるとしたら、私たちは、太陽になることが必要なのではないでしょうか。

「北風あつての太陽」

ところが、最近、私は、本当に勝負は太陽が勝ったのか疑問に思ってきたのです。もしかすると、旅人は、冷たい北風に耐えていたからこそ、太陽の光を笑顔で受け入れられたのではないかと。適度な北風の必要性について、皆さんは、どう思われますか？

今年もまた、子どもたちが、いくつもの失敗やトラブルを乗り越えながら、大きく成長できますよう、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

